

1. 事業の位置付け

事務事業名	環境活動支援事業		
事業担当	環境部 環境政策課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	'01	①〈自然との共生〉四季を通じて豊かな恵みを与えてくれる自然と親しむ	
	'01	1 自然を守るしくみづくりを進める	
根拠法令等			
対象・受益者	環境分野の市民活動団体、市民	事業期間	
委託、協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO ○その他】【協働：環境ファンクラブ】		
	目的・目標		事業の概要
環境の保全や創造の重要性に気づき、考え、それぞれの立場に応じて自発的、積極的に行動する市民、市民団体、事業者が、活発な環境保全活動を行うとともに、先導的な取組を広域的に発信しています。		環境ファンクラブ登録会員のネットワーク化を図るため、活動発表会などを開催するとともに、環境団体などの活動の活性化を図るため、団体活動などを支援します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	活動発表会等開催回数				単位	回
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	2	2	4	4		
	実績	2	3	4	2		
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						
成果指標①	指標名	環境ファンクラブ登録会員数				単位	人
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	65	70	80	90		
	実績	62	77	83	91		
成果指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	市民が主体となった環境活動を促進していくため、環境ファンクラブ等との協働により推進していく本事業には、市が関与する必要性があります。	● 高 ○ 低
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	環境ファンクラブ会員相互の交流やイベントへの出展、環境教室の開催等により、活動の輪が広がり、レベルアップも図られています。市民活動団体と市との協働も実践できています。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input checked="" type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	活動の発展・拡大に伴い、事務局機能や専門機関とのコーディネートなどを担う職員の業務が増えています。	○ 高 ● 中 ○ 低	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	事務局機能を含め、市民活動団体と市との役割分担について、更に検討していく余地があります。また、環境活動支援事業については、今後、他の支援策と調整していく必要があります。	○ 高 ● 中 ○ 低	

## 3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		活動発表会、研修会の開催など	活動発表会、研修会開催など及び団体等支援	活動発表会、研修会開催など及び団体等支援	活動発表会、研修会の開催等及び団体等の支援
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	74	327	283	190
事業費 (A)		74	327	283	190
執行率 (%)		117.46	90.08	77.96	84.82
内訳	職員 (人)	0.52	0.52	0.52	0.62
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		4,364	4,364	4,346	5,121
フルコスト (A+B)		4,438	4,691	4,629	5,311

## 4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①:予定どおり	①:予定どおり	①:予定どおり	③:遅れている 東日本大震災により、3月実施予定の環境パネル展、環境活動発表会が開催できなかった。
	主な取組と成果	環境学習講座を開催し、環境情報の提供による環境活動実践者の支援・拡大を図った。また、環境ファンクラブ会員各々の環境活動を紹介したパネル展示会や環境ファンクラブによる環境教室等を開催し、環境ファンクラブ会員相互の交流を深めるとともにその活動を広域的に発信することができた。	環境フェアなどの機会に、環境ファンクラブ会員によるパネル展示会や環境教室等を開催するとともに、会員向けの環境学習講座を開催し、環境活動実践者の支援・拡大や会員相互の交流を図りました。また、環境保全活動に取り組む団体を主に資金面で支援する環境活動支援事業を始めました。	環境フェアや緑化まつり等の機会に、環境ファンクラブ会員によるパネル展示や環境教室等を開催し、環境活動実践者の支援・拡大や会員相互の交流を図りました。また、環境保全活動に取り組む団体を主に資金面で支援する環境活動支援事業を実施しました。環境基本計画(改訂版)第2期事業計画の策定にあたり会員が市民意見交換会に参加するなど、市の環境政策について意見交換を進めました。	環境ファンクラブ会員によるパネル展示や環境教室を開催するなどして、環境活動実践者の支援・拡大や会員相互の交流を図りました。また、環境活動に取り組む団体を主に資金面で支援する環境活動支援事業を実施しました。緑化まつりでは環境教室を3教室(700人参加)開催したほか、ゴーヤの種やクヌギ、ひょうたんの苗を配布しました。
検証結果		A:成果があがった 平成21年度への展開	A:成果があがった 平成22年度への展開	A:成果があがった 平成23年度への展開	A:成果があがった 平成24年度への展開
今後に向けた課題		必要性、有効性の総合評価は高いが、市民活動団体等と市との役割分担、担当職員の業務増への対応などについて、更に検討していく必要がある。	必要性、有効性の総合評価は高いが、市民活動団体等と市との役割分担、担当職員の業務増への対応などについて、更に検討していく必要があります。また、環境活動支援事業については、今後、他の支援策と調整していく必要があります。	必要性、有効性の総合評価は高いが、市民活動団体等と市との役割分担、担当職員の業務増への対応などについて、更に検討していく必要があります。また、環境活動支援事業については、今後、他の支援策と調整していく必要があります。	必要性、有効性の総合評価は高くありますが、市民活動団体等と市との役割分担、担当職員の業務増への対応などについて、更に検討していく必要があります。

1. 事業の位置付け

事務事業名	環境教育推進事業		
事業担当	環境部 環境政策課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	'01	①〈自然との共生〉四季を通じて豊かな恵みを与えてくれる自然と親しむ	
	'01	1 自然を守るしくみづくりを進める	
根拠法令等			
対象・受益者	児童・生徒、市民	事業期間	
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
	目的・目標	事業の概要	
学校版ISO「わかば環境ISO」の運用、環境教室の開催、ホームページによる環境情報の発信などを通じて、子どもから大人まで幅広い層の人が環境についての理解を深めています。		環境の保全や創造に向けて、環境に対する市民意識の向上を図るため、環境学習情報を発信するとともに、学校版ISO「わかば環境ISO」や環境教室などの事業を展開します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	環境教室等開催回数				単位	回
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	12	13	15	15		
	実績	12	15	21	3		
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						
成果指標①	指標名	わかば環境ISOで独自分野に取り組んでいる件数				単位	件
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	43	45	49	50		
	実績	44	48	49	51		
成果指標②	指標名	環境教室等参加者数				単位	人
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	700	750	800	800		
	実績	586	1292	1204	279		

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	幼稚園・保育園から小中学校までを通じた環境教育や、地域における環境教育の必要性は高まっています。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	環境配慮行動について一定の枠組みを提示できる学校版わかば環境ISOの取組の有効性は高く、外部からも評価されています。環境教室の参加者数は、目標を上回っています。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低	
妥当性	<input type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input checked="" type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	学校版わかば環境ISOについては、各種事務の簡略化や、学校の自由度を取り入れた評価制度の導入を進めました。	<input type="radio"/> 高 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	環境教室については、役割分担をはじめとする実施方法等について検討課題が残されています。	<input type="radio"/> 高 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	

## 3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		環境教室開催等	環境教室、わかば環境ISO認証事業開催等	ポスター・作文コンクール、環境教室開催等	ポスター・作文コンクール、環境教室の開催等
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	565	961	179	191
事業費 (A)		565	961	179	191
執行率 (%)		69.84	64.07	22.13	76.75
内訳	職員 (人)	0.65	0.65	0.65	0.98
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		5,455	5,455	5,432	8,094
フルコスト (A+B)		6,020	6,416	5,611	8,285

## 4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①:予定どおり	①:予定どおり	①:予定どおり	③:遅れている 他事業で実施している環境教室の実績値を除外したため。
	主な取組と成果	「緑化まつり」や「ひらつか環境展」等の場で、幅広い年齢層を対象とした環境教室を開催した。平成19年度は、新たな内容の環境教室を開催し、環境について学ぶ機会を提供した。学校版わかば環境ISOについては、ホームページへの取組内容の掲載や研修会の実施により、活動を促進した。これにより私立幼稚園にも学校版わかば環境ISOの取組が広がり、市民の環境についての理解が深まった。	環境教室については、子ども環境教室(川編、海編、里山編)などを開催しました。また、学校版わかば環境ISOについては、ホームページへの取組内容の掲載や研修会の実施により活動を促進するとともに、3年に1度の認定証交付式を開催し、報告冊子の作成や展示等と合わせて、情報交換を行いました。	環境教室については、子ども環境教室(川編、海編、里山編)のほか、市民大学交流事業や緑化まつりなどで開催し、1,204人が参加しました。また、わかば環境ISOについては、各種事務の簡略化、学校の自由度を取り入れた評価制度の導入を進めるとともに、ホームページへの取組内容の掲載や研修会の実施により活動を促進し、独自分野に取り組む学校・園が49になりました。なお、地球温暖化出前講座の参加者数等は、地球温暖化対策推進事業に掲載しています。	環境教室については、子ども環境教室(川編、海編、里山編)で279人が参加しました。また、わかば環境ISOについては、独自分野に取り組む学校・園が51になりました。環境ポスター・作文コンクールには、505人が参加しました。なお、緑化まつりで実施した環境教室は「環境活動支援事業」に、里山再生プロジェクトで実施した環境教室は「里山保全推進事業」に、環境フェアで開催した環境教室等は「地球温暖化対策推進事業」に掲載しています。
検証結果		A:成果があがった 平成21年度への展開	A:成果があがった 平成22年度への展開	A:成果があがった 平成23年度への展開	C:十分に成果をあげることができなかった 平成24年度への展開
今後に向けた課題		必要性、有効性の総合評価は高いが、実施部署や事務局となる環境政策課等の職員の役割分担や実施方法の見直しにより、効率性を向上させていく必要がある。	必要性、有効性の総合評価は高いが、実施方法や役割分担の見直し等により、効率性を向上させていく必要があります。	必要性、有効性の総合評価は高いが、役割分担をはじめとする実施方法等の継続的な見直しにより、効率性を向上させていく必要があります。	必要性、有効性の総合評価は高いが、役割分担をはじめとする実施方法等の継続的な見直しにより、効率性を向上させていく必要があります。

1. 事業の位置付け

事務事業名	花とみどりの推進団体育成事業		
事業担当	まちづくり事業部 みどり公園・水辺課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	'01	①〈自然との共生〉四季を通じて豊かな恵みを与えてくれる自然と親しむ	
	'01	1 自然を守るしくみづくりを進める	
根拠法令等			
対象・受益者	市民、公園愛護会会員	事業期間	
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
目的・目標		事業の概要	
緑化モデル団体や公園愛護会が、育成されています。		地域緑化の推進及び緑化意識高揚のため、モデル団体や公園愛護会を育成・支援します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	愛護会ニュース発行				単位	回
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	2	2	2	2		
	実績	2	2	2	1		
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						
成果指標①	指標名	公園愛護会登録団体数				単位	団体
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	136	137	143	144		
	実績	137	142	146	148		
成果指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	公園清掃等を行うことにより、環境美化への意識向上、会員相互のコミュニケーションの手段、情報交換の場など、まちづくり・ひとづくりの一端を担う事業であることから、必要性は高いと思われます。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	定期的に公園清掃を行うことにより、市民が公園を快適に利用できることから、有効性は高いと思われます。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	地域の公園は地域の手で守り育てることを通じて、公園への愛着も生まれ、公園愛護精神の普及に貢献し、地域環境保全にも繋がる活動となります。	○ 高 ● 中 ○ 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	公園が増加する中、維持管理経費の財源確保が困難な現状において、全ての公園に愛護会が結成され公園清掃等を行うことにより、経費節減へとつながります。	○ 高 ● 中 ○ 低	

## 3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		交付金の支出や草花の提供	交付金の支出や草花の提供	交付金の支出や草花の提供	交付金の支出や草花の提供
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	59	90
	一般財源	5,353	5,617	5,804	5,763
事業費 (A)		5,353	5,617	5,863	5,853
執行率 (%)		95.22	98.34	101.05	97.03
内訳	職員 (人)	1.71	0.55	0.76	0.76
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		14,349	4,616	6,351	6,277
フルコスト (A+B)		19,702	10,233	12,214	12,130

## 4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①:予定どおり -	①:予定どおり -	①:予定どおり -	③:遅れている 公園愛護会に対する情報発信のあり方を見直したため
	主な取組と成果	年1回の公園愛護会連絡協議会総会開催、役員会3回開催、視察研修会開催(横須賀市三笠公園、長井海の手公園)参加者124名、愛護会ニュース発行2回、前述の活動を通じ緑化モデル団体や公園愛護会が育成されるとともに、公園愛護会への新規登録が4団体あった。	年1回の公園愛護会連絡協議会総会開催、役員会3回開催、市外視察研修会開催(調布市 神代植物園、横浜市 四季の森公園)参加者115名、市内公園視察研修会開催参加者14名、愛護会ニュース発行2回、前述の活動を通じ緑化モデル団体や公園愛護会が育成されるとともに、公園愛護会への新規登録が5団体がありました。	年1回の公園愛護会連絡協議会総会開催、役員会3回開催、市外視察研修会開催(立川市 昭和記念公園)参加者114名、草刈・低木刈り込み講習会開催参加者61名、愛護会ニュース発行2回、前述の活動を通じ緑化モデル団体や公園愛護会が育成されるとともに、公園愛護会への新規登録が4団体がありました。	年1回の公園愛護会連絡協議会総会開催、役員会3回開催、市外視察研修会開催(座間市 県立座間谷戸山公園、平塚市 花と緑のふれあいセンター(参加者98名))、公園愛護活動推進補助物品支給事業(各愛護会にゴミ袋の配布)の実施、愛護会ニュース発行(1回)。前述の活動を通じ、公園愛護活動の推進を行なうと共に、公園愛護会が育成され、公園愛護会への新規登録が2団体ありました。
検証結果		A:成果があがった	A:成果があがった	A:成果があがった	A:成果があがった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開	平成24年度への展開
今後に向けた課題		・愛護会会員全体の高齢化による人員の確保、継続の困難。 ・活動の質の向上。 ・愛護会間の活動充実の相違。	愛護会会員全体の高齢化による人員の確保、継続の困難性があるほか、活動の質の向上や、愛護会間の活動充実に関する相違などが課題です。	愛護会会員全体の高齢化による人員の確保、継続の困難性があるほか、活動の質の向上や、愛護会間の活動充実に関する相違などが課題です。	愛護会会員全体の高齢化による人員の確保、継続の困難性があるほか、活動の質の向上や、愛護会間の活動充実に関する相違などが課題です。

1. 事業の位置付け

事務事業名	保全樹等指定事業		
事業担当	まちづくり事業部 みどり公園・水辺課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	'01	①〈自然との共生〉四季を通じて豊かな恵みを与えてくれる自然と親しむ	
	'01	1 自然を守るしくみづくりを進める	
根拠法令等	緑化の推進及び緑の保全に関する条例		
対象・受益者	対象樹木管理者	事業期間	
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
目的・目標		事業の概要	
良好な樹木・樹林・生垣が保全されています。		良好な樹木・樹林・生垣を保全するため、保全樹などを指定し適正な維持管理を支援します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	保全樹木調査、募集回数				単位	回
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	3	3	3	3		
	実績	3	3	3	3		
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						
成果指標①	指標名	保全樹木の本数				単位	本
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	52	53	54	55		
	実績	49	48	48	46		
成果指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 市民ニーズ</li> <li>■ 事業目的の達成状況</li> <li>■ 市の関与の必要性</li> <li>□ その他</li> </ul>	緑豊かなまちづくりの実現のためには、良好な樹木(46本)・樹林(8か所)・生垣(5か所)を保全していくことが重要なことから、必要性は高いと思われます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高</li> <li>○ 低</li> </ul>
有効性	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 上位施策への貢献</li> <li>□ 市民満足度を高める方策</li> <li>□ 継続による成果向上の可能性</li> <li>□ その他</li> </ul>	保全樹等の多くは老木・古木であり、近年の厳しい環境変化により樹勢が衰える傾向にあるため、継続して状態を観察しながら保全していくことが必要なことから、有効性は高いと思われます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高</li> <li>○ 低</li> </ul>	
妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業の目的、対象、内容</li> <li>■ 受益者負担、補助額</li> <li>□ 業務の執行体制(人員配置、業務分担)</li> <li>□ その他</li> </ul>	樹木等を良好な状態に保つために、所有者自身の管理はもとより、行政としても樹木医等の専門的知識を活用した補助と支援が必要なことから、妥当性は高いと思われます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高</li> <li>○ 中</li> <li>○ 低</li> </ul>	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 業務プロセス改善による効率化の方策</li> <li>□ コスト削減の可能性</li> <li>□ 事業手法(民活の余地、事業形態の検討)</li> <li>■ その他</li> </ul>	保全樹等の多くが老木・古木であり、年々樹勢が衰えるものもありますが、樹木医等を活用して、貴重な樹木等の保全に努める必要があります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高</li> <li>● 中</li> <li>○ 低</li> </ul>	

## 3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		奨励交付金の支出、賠償責任保険の加入等	奨励交付金の支出、賠償責任保険の加入等	奨励交付金の支出、賠償責任保険の加入、樹木医診断等	奨励交付金の支出、賠償責任保険の加入、樹木医による診断等
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	3,990
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	967	11	2,195	2,003
	一般財源	0	2,027	0	0
事業費 (A)		967	2,038	2,195	5,993
執行率 (%)		98.57	206.90	221.94	93.72
内訳	職員 (人)	0.26	0.26	0.26	0.36
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		2,182	2,182	2,173	2,974
フルコスト (A+B)		3,149	4,220	4,368	8,967

## 4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①:予定どおり	①:予定どおり	①:予定どおり	①:予定どおり
	主な取組と成果	市内に残された貴重な樹木等を保存するために、良好な樹木 (49本)・樹林 (8ヶ所)・生垣 (6ヶ所) に対して奨励金を交付した。また、枯損の危険性がある樹木に対して、樹勢回復の施術を行うことにより、良好な樹木・樹林・生垣が保存された	市内に残された貴重な樹木等を保存するために、良好な樹木 (49本)・樹林 (8ヶ所)・生垣 (6ヶ所) に対して奨励金を交付しました。また、枯損及び倒木を防ぐための処置や、第三者に対して損害を与える可能性があるなどの危険性がある樹木に対して、樹木医の診断により、樹勢回復の施術や危険回避の措置を行い、良好な樹木・樹林・生垣が保存されました。	市内に残された貴重な樹木等を保存するために、良好な樹木 (48本)・樹林 (8ヶ所)・生垣 (5ヶ所) に対して奨励金を交付しました。また、枯損及び倒木を防ぐための処置や、第三者に対して損害を与える可能性があるなどの危険性がある樹木に対して、樹木医の診断により、樹勢回復の施術や危険回避の措置を行い、良好な樹木・樹林・生垣が保存されました。	市内に残された貴重な樹木等を保存するために、良好な樹木 (46本)・樹林 (8ヶ所)・生垣 (5ヶ所) に対して奨励金を交付しました。また、枯損及び倒木を防ぐための処置や、第三者に対して損害を与える可能性があるなどの危険性がある樹木に対して、樹木医の診断により、樹勢回復の施術や危険回避の措置を行い、良好な樹木・樹林・生垣が保存されました。
検証結果		A:成果があがった	A:成果があがった	B:おおむね成果があがった	B:おおむね成果があがった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開	平成24年度への展開
今後に向けた課題		保全樹等の多くが老木・古木であるため、樹木医等を活用して生育状況の調査と、良好な状態に保つための施術を施す必要がある。また、万が一の倒木等の対応も検討する必要がある。	保全樹等の多くが老木・古木であるため、樹木医等を活用して生育状況の調査と、良好な状態に保つための施術を施す必要がある。また、万が一の倒木等の対応も検討する必要がある。	保全樹等の多くが老木・古木であるため、樹木医等を活用して生育状況の調査と、良好な状態に保つための施術を施す必要がある。また、万が一の倒木等の対応も検討する必要がある。	保全樹等の多くが老木・古木であるため、樹木医等を活用して生育状況の調査と、良好な状態に保つための施術を施す必要がある。また、万が一の倒木等の対応も検討する必要がある。



1. 事業の位置付け

事務事業名	自然観察事業		
事業担当	社会教育部 博物館		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	'01	①〈自然との共生〉四季を通じて豊かな恵みを与えてくれる自然と親しむ	
	'02	2 自然と親しめる場づくりを進める	
根拠法令等			
対象・受益者	市民	事業期間	1999 年 ~ 2010 年
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
目的・目標		事業の概要	
市民が里山の自然環境に親しむ機会を多くもち、多様な環境学習を繰り広げています。		土屋地区の豊かな里山環境を、自然に親しむ場として、また環境学習を行う場として活かしていくため、既存緑地を活用した自然観察ウォーキングを催します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	イベント開催回数				単位	回
	説明・算定式	自然観察ウォーキングなどの開催回数					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	3	5	6	4		
	実績	4	3	5	5		
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						
成果指標①	指標名	イベント参加者数				単位	人
	説明・算定式	自然観察ウォーキングなどの参加者数					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	50	100	100	40		
	実績	50	31	74	81		
成果指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価		
	必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 市民ニーズ</li> <li>■ 事業目的の達成状況</li> <li>■ 市の関与の必要性</li> <li>□ その他</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 上位施策への貢献</li> <li>□ 市民満足度を高める方策</li> <li>■ 継続による成果向上の可能性</li> <li>□ その他</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業の目的、対象、内容</li> <li>□ 受益者負担、補助額</li> <li>■ 業務の執行体制(人員配置、業務分担)</li> <li>□ その他</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 業務プロセス改善による効率化の方策</li> <li>□ コスト削減の可能性</li> <li>□ 事業手法(民活の余地、事業形態の検討)</li> <li>■ その他</li> </ul>	自然観察の方法や観察マナーの教育は公共機関が担うべきです。事業の分類としては教育普及活動の一環として行なうほうがふさわしいと考えます 教育普及活動推進事業の一環として、自然観察を内容とした行事は継続できます 生物部門が実施する他の普及活動事業の内容と比較して、あえて事業を別にする必要性は大きくありません 予算や開催地の面で、年間の自然観察関連行事を総合的かつ弾力的に編成できるほうが効率的と考えます

## 3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		自然観察ウォーキングの実施	自然観察ウォーキング、ガイドマップの作成	自然観察ウォーキングの実施	自然観察ウォーキングの実施
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	0	292	42	36
事業費 (A)		0	292	42	36
執行率 (%)		0.00	19.47	2.80	90.00
内訳	職員 (人)	0.20	0.20	0.25	0.20
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		1,679	1,679	2,089	1,652
フルコスト (A+B)		1,679	1,971	2,131	1,688

## 4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①: 予定どおり -	③: 遅れている 自然観察園整備事業は地域の理解と協力が欠かせないため、時間が必要です。	②: 若干遅れている 参加希望者を増やす広報など関心を持ってもらうための工夫が足りませんでした。	①: 予定どおり -
	主な取組と成果	自然観察ウォーキングを3回、土屋子ども探検隊を1回、実施することにより、市民が里山の自然環境に親しむ機会をもつことができました。	自然観察ウォーキングを2回、土屋子ども探検隊を1回、実施することにより、市民が里山の自然環境に親しむ機会をもつことができました。	自然教室の中で2回、土屋子ども探検隊を1回、自然観察ゼミナール「土屋で学ぶ」の実施により、市民が里山の自然環境に親しむ機会をもつことができました。	自然教室の中で5回を実施し、市民が休耕田や里山の動植物を知る機会を持つことができました。
検証結果		A: 成果があがった	C: 十分に成果をあげることができなかった	B: おおむね成果があがった	A: 成果があがった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開	平成24年度への展開
今後に向けた課題		自然観察園の計画を進めるため、継続的な実施が必要である。	自然観察園の計画は地域の理解と協力が必要ですが、必要性和効果を理解していただくのに時間がかかります。	自然に関する知識や観察マナーなどを、より多くの市民に理解していただく必要があります。	自然観察やその方法を学ぶための活動は、従来より教育普及活動推進事業のひとつとして行っており、今後も季節や目的に応じてテーマ・開催地を選定し、続けて行く必要があります